

## 堀田善衛の文学 —世界を見つめる眼—

伏高生の皆さんは、堀田善衛（1918～1998）という作家を知っていますか？伏木の老舗の

廻船問屋（屋号：鶴屋）に生まれ、1952年（昭和27年）に「広場の孤独」「漢奸」その他の作品により、第26回芥川賞を受賞された作家です。堀田善衛が34歳のときです。

芥川賞というのは通称で、正式には芥川龍之介賞といい、雑誌に発表された芸術性の高い短編・中編作品に与えられる賞で、直木賞と並び日本で最も有名かつ歴史のある文学賞です。伏木出身の芥川賞作家がいるという事実は、これから作家を目指そうとする若い人々に夢と希望を与えてくれますね。

さて、意外と知られていませんが、本校のお宝の一つに「堀田善衛文庫」があります。記念館2階に、海外友好校から寄贈された品々を展示・保管する国際交流室「ル・シエール」があり、その一角に堀田善衛の作品コレクション（初版本を含む）があるのです。これは他に類を見ない、貴重なコレクションです。2018年（平成30年）に富山県の高志の国文学館で生誕100年記念特別展が開催された際、このコレクションの一部を展示品として貸し出しています。管理の都合上、交流会や研修会、部活動等で使用する以外は「ル・シエール」には入れませんが、できればいつか見学の手配を設けたいと考えています。

「堀田善衛文庫」は、本校で数学を教えておられた吉滝栄一先生が個人的に収集され、本校へ寄贈されたものです。かつて本校で私が担任をしていた時、図書部長の吉滝先生が堀田善衛の文学について熱く語られ、それを聞いた私も共感し、本校の図書委員と一緒に1996年の学校祭（府丘祭）で展示会を開催しました。多くの保護者や一般の方々にご覧いただき、もしかしたらこれが富山県初の「堀田善衛展」だったのでは？と個人的には思っています。この時の調査で、映画・ゴジラに登場するモスラという巨大な蛾の怪獣を考えたのがじつは堀田善衛だと知りました。なつかしい思い出ですね。



（当時の北日本新聞記事より）

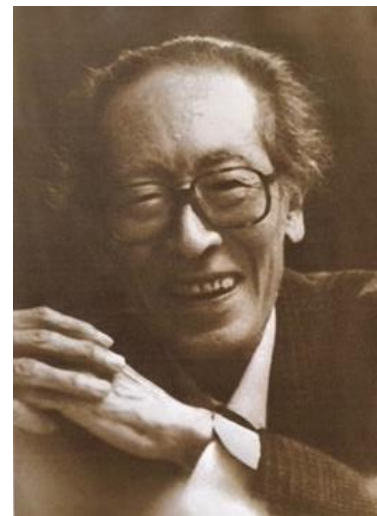
2008年に神奈川近代文学館で「堀田善衛—スタジオジブリが描く乱世」、2018年に高志の国文学館で「堀田善衛—世界の水平線を見つめて」が開催され、今日において堀田文学の評価は高まっています。かの宮崎駿は、“私が人生で一番影響を受けた人物は堀田善衛である”と断言しています。この理由については、『堀田善衛を読む—世界を知り抜くための羅針盤』

（集英社新書、高志の国文学館編、2018年）という本に、宮崎駿へのインタビューが掲載されており、その理由を語っています。ぜひ読んでみてください。

堀田善衛は、中国、インド、ソ連（ロシア）、スペインなどの海外を渡り歩き、独自の視点で優れた文学作品を世に送り出した作家です。アジア・アフリカ作家会議の事務長を歴任するなど、国際人でもありました。当然ながら、堀田文学には堀田善衛の信条や思想が投影されています。私が思うに、それは一貫して「自分の眼で実際に見て、確認したこと以外は信じない」という考え方です。噂は信じない。他人の評価をうのみにしない。まず現地へ足を運び、必ず自分の眼で確かめる。こうした国籍や既成概念にとらわれずに世界を見つめようとする資質は、おそらく幼少の時に過ごしたこの伏木の地で培われたのでしょうか。現代はSNSなどで情報が簡単に手に入り、とても便利である反面、何が本当で何が嘘なのかを、にわかには判断しづらくなっている時代です。こうした不透明な時代を生きるための知恵を、堀田善衛は教えてくれているように思います。

最後に、堀田善衛が、伏木中学校（卒業時は伏木尋常高等小学校）へ送った「風はどこから吹いて来る—伏木中学校の歌—」を紹介します。この歌は、伏木の地で学ぶ全ての若者への“応援歌”である、と私には伝わってきます。みなさんは、どうですか？

風はどこから吹いて来る  
丘を吹く風 海の風  
風はどこから吹いて来る  
丘を吹く風 海の風  
港の町に育つ仕合せは  
風の故郷と行く先を  
マストの鷗（かもめ）とともに知る  
倉庫の蔭で働く人も  
ウィンチ巻いて荷揚げの人も  
みんな行く手を知っている  
広い世界で働こう  
広い世界を知り抜こう  
たとえわれらの町の長い冬  
海の色は暗くても  
その暗い重さはわれわれの  
心の錨（いかり）学んで知るは羅針盤  
さあ船出しよう エンジンかけて  
広い世界で働こう  
広い世界を知り抜こう  
風はどこから吹いて来る  
丘を吹く風 海の風



芥川賞作家 堀田善衛

「堀田善衛文庫」解説パネルより



堀田善衛文庫

（「風はどこから吹いて来る—伏木中学校の歌—」『堀田善衛全集』Ⅰ所収）